

令和5年度第2回新潟市健康づくり推進委員会会議概要

日時： 令和6年2月27日（火）

午後7時から8時30分

会場： 新潟市総合保健医療センター2階 講堂

1 出席者

【委員】

伊藤委員、岡田委員、関委員、田邊委員、椿委員、長谷川委員、村山委員、森田委員、山田委員、吉田委員、葭原委員、和泉委員、和須津委員、渡邊委員

【庁内関係課】

保険年金課、こころの健康センター、保健所保健管理課、保健所食の安全推進課、各区健康福祉課、保健給食課、学校支援課

【事務局】

保健衛生部長、保健所長、保健衛生部医監、保健所健康増進課長、ほか保健所健康増進課職員

【傍聴者】2名

2 議題

- (1) 新潟市健康づくり推進基本計画（第3次）の評価
 - 指標一覧
 - データから見る本市の現状
- (2) 新潟市健康づくり推進基本計画（第4次）の方向性（案）について
- (3) 報告
 - 第3次新潟市自殺総合対策行動計画（案）について

3 概要

<議題（1）新潟市健康づくり推進基本計画（第3次）の評価>

○ 指標一覧

【事務局説明】

- ・評価指標58項目について、令和5年10月に実施した「新潟市民の健康づくりに関する調査（以下、市民調査という）」の結果をもとに、第3次計画策定時の値と最新値について比較し、「目標達成」11項目、「改善」7項目、「やや改善」10項目、「不変」4項目、「悪化」21項目、「未達成」4項目、「評価せず」1項目という結果であった。全評価指標のうち、5割弱に改善がみられた。
- ・分野毎の詳細な評価については、資料1-2を参照。

○ データから見る本市の現状

【事務局説明】

- ・健診・医療・介護情報等のデータを分析し、新潟市の人口、平均寿命・健康寿命、市民の健康意識・行動、人口動態、介護保険、国保特定健診・特定保健指導、医療費等について、資料2-1、2-2のとおり報告。

【意見、感想】

- ・「1日60分くらい体を動かす生活を実践している人の割合」が目標達成した一方で、「日常生活における歩数」は悪化という結果はどう捉えるべきか。
→健康日本21（第1次）の調査においても同様の結果であり、その理由の一つとして、歩数が減っていることを自覚し、それを補足するために運動しようとしているのではないかと、因果の逆転関係の可能性が考えられる。
- ・続けて60分でなくても、細切れの運動でもよいか。
→以前は15分以上の運動で脂肪燃焼効果が得られるとされていたが、現在は短時間の頻繁な運動でも効果があると言われている。
- ・細切れの運動でもよいのであれば、そういったことを評価できる指標があるとよい。運動しよう意識しているかどうかを評価するのはいかがか。1日60分という時間を気にしなければ、もっと運動しやすくなり、そういう人が増えることが一つの効果と考える。
→指標「1日60分くらい体を動かす生活を実践している人の割合」における「1日60分くらい」とは、「60分以上続けて」ということではなく、細切れの運動を重ねて合計60分という意味である。今回の市民調査では座位時間を追加したので、そのあたりも踏まえ、第4次計画策定に向け、運動に関する指標を検討する。
- ・企業における健康づくりについては、高齢者の転倒・骨折防止のため、バランス力や筋力のアップに向けた職場での取組が進んでおり、労働者それぞれが自分の体をメンテナンスするというような指標もあるとよいのではないか。
- ・栄養・食生活分野の指標で悪化が多いが、取組と結果がつながっていないように感じる。ちよいしおプロジェクトでは、アウトプットが見える評価をするとよい。また、栄養・食生活の項目において地域差を分析するなど、どういう人が悪化したのかを把握できると、今後の取組のターゲットが見えてくる。
- ・女性の喫煙率9.5%と高く、目標に対し2倍程度の数値である。市民調査では、数人の動きでも数字が大きく動く可能性があるため、特定健診の質問票の傾向など、もっと大きなサンプルの喫煙率のデータも参考にあるとよい。
- ・第3次計画の取組の視点にある「健康経営の推進」や、基本方針にある「重症化予防」、「企業等との連携による健康づくりの推進」に係る指標も一覧に加え評価したほうがよい。
→市民調査の結果を中心に分野別の評価を行い、基本方針3・4の指標は分野別の指標に該当しないため、今回の評価には掲載しなかった。基本方針3「生活習慣病の重症化予防」の指

標においては、血糖コントロール不良者の割合が悪化、人工透析者数が達成、基本方針4「地域に密着した健康づくりの推進」の指標においては、地域団体が取り組む健康づくり事業数が悪化、健康経営に取り組む企業数は目標達成した。

<議題（2）新潟市健康づくり推進基本計画（第4次）の方向性（案）について>

【事務局説明】

- ・第4次計画では引き続き健康づくりを推進し、健康寿命を延伸させることを目標とし、取組の視点に「自分が健康だと思ふ市民の増加」、「社会とのつながりの中で元気に暮らす市民の増加」、取組の方向に「個人の行動と健康状態の改善」、「ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり」、「誰もが健康になれる環境づくりの推進」をあげている。
- ・基本方針は、「健全な生活習慣の確立と維持向上」「生活習慣病の発症予防と重症化予防」「地域に密着した健康づくりの推進」とする。

【意見、感想】

- ・新たな評価項目として中高生の喫煙率とあるが、喫煙だけではなく、睡眠や運動習慣についても、学校保健と連動した把握が必要と考える。
- ・中高生の喫煙率について、加熱式たばこも調査してほしい。若い世代におけるシェアは加熱式たばこが多いため、加熱式たばここと紙巻きたばこを分けて調査する必要がある。
→加熱式たばこや電子たばこが多く出回っており、そのあたりを加味して調査予定である。
- ・生活様式が大きく変化するのは高校卒業後であり、周囲の影響を受け、またそれが定着しやすく、非常に重要な時期である。成人式を利用するなど、19、20歳にアプローチできる方法を考えなければならない。
- ・友人の影響でニコチンが入っていないフレーバータイプのものから始め、その後たばこの喫煙習慣がついたという人もおり、大学時代は家庭による制限が弱まり、友人の影響を強く受けるようになるため、その年代への調査やアプローチが必要と考える。
- ・高校卒業後の20歳を対象にすることは、高校生までの行政や学校における取組が、将来に渡りどのように影響したのかを評価できる機会であり、検討してほしい。
- ・減塩対策等、環境整備をした時の評価の一つとして、市民調査で意識や行動を確認するのも重要だが、尿中ナトリウム・カリウム測定値を指標に加えるのはいかがか。三条市では、特定健診で尿中ナトリウム測定を実施している。
→本市の特定健診は委託医療機関における個別受診として実施しているため、難しい。
- ・食環境づくりに取り組む店舗数などを指標の一つとして把握するのはいかがか。
→以前はスーパー等販売店の食数をカウントしていたが、新潟県事業「からだがよるこぶデリ」とのすみ分けを図り、現在は飲食店と連携しちよいしおプロジェクトを実施している。一部の店舗に限られ、店舗数は少ないが把握は可能である。
- ・新潟県事業である「からだがよるこぶデリ」の市内販売数を把握するとよいのではないか。

また、第4次計画の取組の方向にある、誰もが健康になれる環境づくりの推進のためには、県との連携、地域ぐるみの取組が重要と考える。

→新潟県との連携、協働等については今後検討していく。

<報告>

○ 第3次新潟市自殺総合対策行動計画（案）について

【事務局説明】

- ・本市における自殺の現状及びこれまでの自殺総合対策事業の成果と課題、第2次計画における数値目標の達成状況について説明。
- ・第3次新潟市自殺総合対策行動計画の計画期間は令和6～令和10年度とし、平成27年の自殺死亡率を30%以上減少させることを目標とする。基本施策、重点施策は資料4のとおり。

【意見、感想】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、全国的に自殺死亡率が悪化したが、本市における自殺死亡者において、年代等の特徴はあるか。
→全年齢層で平均的に増加しており、本市における独自の特徴は現れていない。自殺の原因・動機は従来と大きな変化はなく、健康の問題、次いで家庭の問題と多いという状況である。コロナ禍といえども、何が影響しているかは本市、全国的にも分析しきれていない。

【配布資料】

次第

出席者名簿

座席表

資料 1-1、1-2 新潟市健康づくり推進基本計画（第3次）の評価～指標一覧～

資料 2-1、2-2 新潟市健康づくり推進基本計画（第3次）の評価～データから見る本市の現状～

資料 3-1、3-2 新潟市健康づくり推進基本計画（第4次）の方向性（案）について

資料 4 第3次新潟市自殺総合対策行動計画（案）について

参考資料 新潟市健康づくり推進基本計画（第3次）スマイル新潟ヘルスプラン概要版